

## 平成 29 年度 行政視察報告書

<b>実施日時</b>	<b>視察先</b>	有限会社 ココ・ファーム・ワイナリー
平成 29 年 8 月 23 日 14:00~15:00	<b>視察地</b>	栃木県足利市田島町 611
<b>1 障害者雇用事業の取組み（足利市）</b> <b>～有限会社ココ・ファーム・ワイナリーについて～</b>		
報 告 内 容	<p><b>1 視察調査事項</b></p> <p>① 有限会社ココ・ファーム・ワイナリー（同社HPより）  1950 年代、栃木県足利市の特殊学級の中学生たちとその担任教師（川田昇）によって山の急斜面に葡萄畑が開墾されました。  1969 年、この葡萄畑の麓で、指定障害者支援施設こころみ学園（社会福祉法人こころみる会運営）がスタートしました。知的障害を持った人たちと葡萄畑でワインをつくることを考えましたが、社会福祉法人には葡萄をワインにするための果実酒製造免許が下付されないため、1980 年、一般の事業所である有限会社が、こころみ学園園長・川田昇の考えに賛同する父兄たちにより設立されました。1984 年、この有限会社が果実酒製造免許をいただきました。  有限会社ココ・ファーム・ワイナリーは、知的障害を持った人たちをはじめ、みんながいきいきと力を発揮できるようにつくられた会社です。</p> <p>② こころみ学園について（同園HPより）  <b>【施設概要】</b></p> <p>○障害者支援施設『こころみ学園』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設入所支援 90 名・</li> <li>・生活介護 105 名</li> <li>・短期入所 10 名</li> </ul> <p>○多機能型事業所『あかまつ作業所』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活介護 10 名</li> <li>・就労継続支援 B 型 10 名</li> </ul> <p>○共同生活援助事業所『あけぼの荘・三井荘・うちこし荘・あさひ荘・たじま荘・もちぶね荘・小松荘』（7 ホーム 30 名）</p> <p>○相談支援事業所『こころみ』（特定および障害児相談支援事業）</p>	

【基本理念】

以下の2つの支援を柱に、管理者、サービス管理責任者、支援員、作業指導員、調理員等、スタッフ全員が、設立当初のねらいをできる限り大切にしながら、精一杯の支援を行って参ります。

・生活の支援

共同生活を通じた入浴、排泄、整理・整頓、食事、医療および健康・服薬管理等、規則正しい安定した生活を送るために必要な支援

・日中活動の支援

一人一人が自分に誇りをもてるような作業や活動の場の提供

ブドウ栽培 洗濯作業 しいたけ栽培 食事の用意 ワイン醸造  
寮内の清掃 山里整備 工芸品の下請け作業 機能維持のための活動

【施設概要】



## 2 視察を終えて（視察報告）

「こころみ学園」のワインづくりが一躍脚光を浴びた出来事は、2000年7月に沖縄県名護市で開催された九州・沖縄サミット首脳会合が開催され、「現代の名工」となった世界的に有名なソムリエの田崎真也が乾杯用に選んだワインが、今回視察を行った「ココ・ファーム・ワイナリー」で作られたスパークリング・ワインだということは非常に有名な話であります。

また、1980年代から実施しているシイタケ栽培も、現在は栽培農家にとって必要欠くべからざるものとなり、地域の生産者が知的障害者と協力して生産する仕組みとなっております。

今回、「ココ・ファーム・ワイナリー」を視察して、こうした労働は、知的障害者の生き甲斐や誇りになっていくと同時に、彼らの貴重な収入源となっている。こうした取組みは、本来の福祉のあるべき姿である。

本区においても、障害者団体が「パン作り」等に励んでいるが、今回視察した「ココ・ファーム・ワイナリー」の取組みを広く進められるように、今後の議会活動で提言してまいります。

<視察風景> ココ・ファーム・ワイナリー



## 平成 29 年度 行政視察報告書

<b>実施日時</b>	<b>視察先</b>	福島市役所／福島市議会事務局
平成 29 年 8 月 24 日 14:00～16:00	<b>視察地</b>	福島県福島市五老内町 3 番 1 号
<b>2 震災復興事業の取組み（福島市）</b> ～復興に向けた取組みについて～		
<b>報 告 内 容</b>	<p><b>1 視察調査事項</b></p> <p>(1) 福島市復興計画（市HPより）</p> <p>※ 福島市復興計画は、平成 28 年度から 32 年度を計画期間とする福島市総合計画後期基本計画に統合されました。</p> <p>① 計画の位置付け</p> <p>福島市総合計画基本構想で定めた将来都市像(※)の実現に向け、福島市総合計画前期基本計画を補完する計画と位置づける。</p> <p>※将来都市像：「ときめきとやすらぎ 希望にみちた人間尊重のまち 福島市」</p> <p>② 復興計画の概要</p> <p>◆ 復興計画基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理 念 … 「希望ある復興」</li> <li>・ 目 標 … 「子どもからお年寄りまで、暮らしてよかったと実感できるまち」の実現</li> <li>・ 方針の柱 … 「除染を主体として原子力災害からの復興を強力に進めます」「地震災害からの復興を強力に進めます」「市外からの広域避難者を支援します」「市の体制を整備し、市民との協働と国・県等との連携により復興を進めます」</li> <li>・ 計画期間 … 「復興は、この基本方針に基づいて、5 年を重点期間として進めます」</li> <li>・ 施策体系別「主な事業」と「事業化に向けて検討する事項」 … 「希望ある復興」を進めるため、基本方針の施策体系別に「主な事業」と「事業化に向けて検討する事項」を示す。</li> </ul> <p>③ 計画の進行管理</p> <p>本計画の進行管理にあたっては、事業の年次計画を定めた実施計画を策定し、毎年見直しをおこなってまいります。</p>	

報  
告  
内  
容

④ 計画の柔軟な見直し

本計画は、国や県の動向、災害の状況変化などに対応し、柔軟な見直しをおこないます。

⑤ 福島市復興計画検討委員会について

福島市復興計画を策定するにあたり、専門的かつ幅広い見地からの意見・提案をいただくため、市民の代表、各産業界の代表、学識経験者等で組織する、福島市復興計画検討委員会を設置しました。

(2) 福島市総合計画後期基本計画（市HPより）

① 前期基本計画の評価

平成 23 年度から平成 27 年度を計画期間とする前期基本計画では、「ときめきとやすらぎ希望にみちた人間尊重のまち福島市」を将来都市像とする基本構想の実現に向け、戦略的・重点的に推進すべき 4 つの施策を「重点施策」として位置づけ、子育て支援・雇用機会の創出・高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり・環境にやさしい美しいまちづくりを推進してきました。

計画期間直前の平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災と原子力災害の影響もありましたが、計画に掲載した全ての施策に着手するとともに、目標を概ね達成した施策もあります。施策の進捗を示す指標につきましても、ほぼ全ての指標が目標の半分以上を達成できる見込みとなっています。

② 東日本大震災および原子力災害からの復旧・復興に関する取り組み

地震災害からの復旧については、ほぼ完了した一方で、原子力災害に起因する除染をはじめ空間線量率低減の取り組み、モニタリング、農産物などの放射性物質の検査などによる食の安全・安心の確保、内部被ばく検査などの市民の健康管理等放射線対策や、放射線について正しく理解するための教育や情報発信、不安を軽減するためのこころのケア、避難生活を送っている市民や市内へ避難している方への支援については、今後とも継続的に取り組んでいくことが求められています。

③ 後期基本計画の意義

前期基本計画のまちづくりを継承するとともに、東日本大震災とそれに伴う原子力災害の発生を受け総合計画の補完計画として策定した「福島市復興計画」を統合することで、復興への取り組みを今後も継続的に進め、また、基本構想の具現化をはかっていきます。

## 2 視察を終えて（視察報告）

福島市では「東日本大震災」発生後、除染を基本とした生活環境の改善はもとより、大きなダメージを受けた「福島ブランド」の修復と復旧や産業の振興による雇用の確保などを目的にして市民とともに作成した「福島市復興計画」を「福島市総合計画後期基本計画」に統合した。統合された基本計画は、平成28年度～平成32年度を計画期間とするもので、福島市が目指す「ときめきとやすらぎ 希望にみちた人間尊重のまち 福島市」の実現に向け着実な取り組みを推進するものである。

今回の視察では、統合された「福島市総合計画後期基本計画」に基づき、取り組み状況等について調査研究しました。

担当者からは、地震災害からの復旧については、ほぼ完了しているものの、原子力災害に起因する除染をはじめ空間線量率低減の取り組み、モニタリングや農産物などの放射線物質の件さなどによる食の安全、内部被ばく検査などの市民の健康管理等放射線対策、更に不安を軽減する「こころのケア」、避難生活を余儀なく送られている市民への支援については、今後とも継続して取り組むとのことでありました。

本区においては、依然として多くの避難者が生活されており、こうした方々が一日も早く、生まれた土地で安全に生活出来るよう支援に取り組んでまいります。

<視察風景> 福島市議会事務局・会議室



## 平成29年度 行政視察報告書

<b>実施日時</b>	<b>視察先</b>	起業支援センター（アシ☆スタ）
平成29年8月25日 10:00～11:30	<b>視察地</b>	仙台市青葉区中央1-3-1 公益財団法人 仙台市産業振興事業団内 7階

### 3 起業支援事業の取組み（仙台市） ～起業支援センター“アシ☆スタ”について～

報 告 内 容	<p><b>1 視察調査事項</b></p> <p>(1) 事業概要（全国市議会議長会HPより）</p> <p>① 事業期間                      平成25年度～</p> <p>② 総事業費（単年度）        33,359千円</p> <p>③ 目的</p> <p>「日本一起業しやすいまち」の実現に向け、事業プランの検討段階から、起業の準備段階、起業後の事業安定まで、起業全般の様々な課題解決をサポートする。</p> <p>④ 特色</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンストップ対応（起業・創造に係る様々な相談、支援ニーズに対応）</li> <li>・起業支援ネットワーク（多様な産業支援機関、NPO等と連携した地域を挙げての支援体制）</li> <li>・先輩起業家、市内企業、大手企業の経営層などによる「起業家応援団」を結成</li> <li>・女性や若者、シニア層などの起業を積極的に支援する。</li> </ul> <p>⑤ 課題</p> <p>起業に関心がある方々や起業を志す方々（起業予備軍）の発掘、息の長いフォローアップ（事業継続のサポート）、地域を挙げて起業家を育成する環境の確立。</p> <p>(2) 事業内容（市HPより）</p> <div style="border: 2px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>■特徴</p> <p>◇ワンストップ対応（起業、創業に係る様々な相談、支援ニーズに対応）</p> <p>◇起業支援ネットワーク（多様な産業支援機関、NPO等と連携して、地域を挙げての支援体制）</p> <p>◇先輩起業家、市内企業、大手企業の経営層などによる「起業家応援団」を結成</p> <p>◇女性や若者、シニア層などの起業を積極的に支援</p> </div>
------------------	--

① センター概要

「日本一起業しやすいまち」を実現するため、仙台市の全面的なバックアップのもと、仙台市産業振興事業団内に「仙台市起業支援センター」を設立し、起業に係る各種支援施策を総合的に展開する。

(ア) 名称 仙台市起業支援センター

(イ) 設置主体 (公財) 仙台市産業振興事業団

(ウ) 設置場所 仙台市青葉区中央1丁目3番1号AER7階仙台市情報・産業プラザ内

(エ) 体制 専任スタッフ2名及び起業支援コーディネーター2名  
 ※上記の他、仙台市産業振興事業団の中小企業支援に関わるスタッフ・コーディネーター等も加わった  
 起業支援専属チーム組織



②センターの機能等

(ア) 具体的な機能

- 1 起業に係るあらゆる相談への対応
- 2 事業立ち上げ支援  
 (ビジネスプランの策定支援、会社設立の際の各種手続き支援)
- 3 各種セミナー、啓発イベント等の開催
- 4 先輩起業家、既存企業の経営者らによる「起業家応援団」の結成
- 5 フォローアップ・中小企業支援事業や他の産業支援機関への橋渡し
- 6 起業支援施策に関する広報・啓発、情報発信

(イ) 事業費 平成25年度：6,928千円

2 視察を終えて (視察報告)

起業家を目指す上で、事業計画の熟度を高め不足している経営資源を補い、しっかりと準備することでリスク解消が図られることになる。また、知識や技術・趣味や特技を生かし、仕事を通じて地域や社会に大きく貢献するという意義があるが、起業までの道のりは決して平坦ではないが相談相手がいることでリスクや不安を軽減することができることから仙台市では起業支援センター“アシ☆スタ”を設立して起業家に対する支援に取り組んでいる。



この企業支援センターでは直面する課題解決のサポートをするため、相談業務や必要な知識、スキルを身につけるセミナーを開催するなど、事業の構想段階から起業後のフォローをワンストップで行う組織である。

今回、起業支援センター“アシスタ”を視察して感じた点であるが仙台市が掲げている「日本一起業しやすいまち」の実現に向けて着実な取り組みを実践しており、本区においても積極的な支援に取り組んでまいります。

<視察風景> 起業支援センター“アシスタ”



ロゴマークについて (HP より)



★ デザインの趣旨

「起業を目指す皆さんに親しみを感じていただき、気軽に利用して欲しい」「利用者様の中から地域経済の次代を担う明日のスターが生まれて欲しい」「右肩上がりに成長して欲しい」などの願いを込め、仙台七夕の短冊をモチーフ（文字の緑部分）にした明るくカラフルなデザインにしました。